

俺が担当しているTV番組、「トツゲキ☆怪百景！」にヤバそうな香りのする視聴者メー  
ールが届いたのはある晴れた日の昼下がりのことだった。

『ボクの住むZ市では《人喰い沼》と呼ばれる沼があります。さいきんその近くで友達と  
遊んでいたら大切なおもちゃを沼に落としてしまいました。大人は危ないから沼に入って  
探すのはあきらめると言いますがボクはあきらめられません。解決団のみなさん、どうか  
沼に入ってボクのおもちゃを探して下さい。 Z市立南小学校三年 たちばな しょうへ  
い』

「Z市の人喰い沼」か……ネットで検索するとすぐに出てきた。

赤茶けた透明度の低い沼は確かにおどろおどろしく、不気味な雰囲気醸し出していた。  
人喰い沼、底なし沼、血の池じごく沼、などと呼ばれているせいか不法投棄も絶えないら  
しい。

更に調べているとZ市にはもう一つ、奇妙な観光名物があった。

——「首なし大仏」だ。

首なし大仏はちょうど人喰い沼の近くにある山の山頂付近の寺にある。

もとは立派な首つき大仏だったのだが、鎌倉時代の大地震があった頃に首が無くなった  
らしい。

インターネットの噂では首なし大仏の首、つまり「頭部」も人喰い沼に沈んでいるとか  
いないとか。

首のない大仏、人喰いの沼、不法投棄という社会問題、そして少年の宝物……！

これは高視聴率がとれそうだ。俺は急いでスペシャル特番用の企画書を書き上げた。

題して『人喰い沼の水、全部ぬく！ 少年のお宝と大仏の首を奪還せよ！』だ！

久々にキャッチーなネタに大喜びのお偉いさん方から予算をふんだくると、意気揚々と  
俺は事前調査もかね現地へ飛んだ——。

人喰い沼調査の下見メンバーは俺こと朝日D、ADの遠藤、カメラマン佐藤、小型クレ

ーンを操縦してくれる小池さん、それにメールをくれた立花翔平くんも来てくれた。

下見なので芸能人は来ていないのだが、俺は「解決ディレクター」として少しは視聴者に顔が知られているので彼は協力的で話は聞きやすかった。

なんでも沼に落としたのは最近アニメで流行している鬼を倒すという「光明刀」という日本刀を模したもので、アニメに出て来る坊さんのモデルとなった坊さん（ややこしい）が一本一本法力を込めた本格的なものらしい。

人喰い沼のまわりにはぐるりと有刺鉄線と注連縄が張られていて、実際に見ると予想より遙かにこじんまりとしていたが、それがかえって身近に感じられ気味が悪かったし、赤いのはおそらく土中の鉄分がにじみ出たものだろうが思って居た以上に禍々しい。

沼の中心部には浮島があったが亀が甲羅干ししているという牧歌的な光景は見られずただひたすら荒涼としている。

それに沼の周囲はぬかるんでいて水を吸水する大型の吸引ポンプ車を停める場所を探すのに苦労しそうだ。

倒木も多いので小池さんにクレーンで移動してもらい、撮影ポイントを確保する。

どんよりとした空気を払拭するべく早速、来る途中で買い込んだ大ぶりの魚と骨付き肉を放り込んでみる。

ドボン。

——サッ。

水中から手がのびて、あつと言う間に骨だけ浮かんでくる。

「おい、見たか！？ いまの」

「み、見ました……！ すごいっすよ朝日さん！ これ超トクダネっす！」

興奮するAD遠藤に対してカメラマンや立花君の顔色は悪い。

「オレ、ちよつと行ってきますす！」

そう言うと遠藤は水中カメラを手に、沼にザブザブ入っていく。

沼の中心——浮島近くまで来たあたりで「うわっ」という短い悲鳴が上がった。

「おい！ 大丈夫か？」

「や、ちよつと急に深くなつてい——ぎゃあああああ！」

ごぼ。ごぼり。ごり。ごきん。ばき。ばきばきばき。

骨の碎ける音と共に遠藤は沈んでいく。

沼の赤色が濃くなり、やがてポカリと水中カメラだけが浮かんできた。

——これはやばい。

あわてて水面に浮かんだカメラをアミですくい、映像を確認する。

そこには限りなくヒトに近い「何か」が映っていた。河童と半魚人を足して二で割り、醜悪さと凶暴さを何倍にもしたようなヤツが……。

とにかく遠藤はそのぬめぬめした肌と河童のような水かきと鮫のような牙をもった生き物に捕らえられ、餓鬼のような膨れた腹の中におさめられてしまった。

そして画面の赤い視界の中にはバッチリ大仏の首も、その近くに立花君の光明刀も真っ直ぐ突き刺さるかたちで映っていた。

中心の浮島に見えたものは大仏の頭頂部の一部だったのだ。

ネットの情報だと大仏の首は2メートルちよい。

と、いう事は浮島部分と沼底にくい込んでいる部分を差し引いて一番深い所で2メートル前後といったところか。

俺は魚を大量にばらまいた。

そしてヤツをひきつけているうちに棒高跳びの要領で近場の枝で竿をさし、急ぎ沼の中心の浮島（大仏様の頭の上だけけれど）まで飛び移り、肩まで沼に入れ手探りで刀を掴み上げる。

ほぼ同時に魚を喰い終わったとおぼしきヤツがザパンと水中から上半身をあらわにした。俺は躊躇なく光明刀で突き刺す。

「ぎいーいー！」

気色の悪い悲鳴を上げてヤツが水中に沈んでいく。

そしてその機を逃さず大仏の頭部に縄をかけ、クレーンで持ち上げるように指示をする。

「小池さーん！ よろしく！」

俺は必死で大仏の頭頂部のぶつぶつ（螺旋というらしい）にしがみつく。

「朝日さん、上げますよー！ しっかり捕まってる」

ボコン。ゴボ……ガボボボボボ……！！！！

なんという事だろう。鈍い音と共に大仏の下に大穴が現れた。

なんだ……？ 沼の底に「更に底」があるという事か？ 一体どこにつながっているんだ？

風呂の水が抜ける時のように大渦を巻きながら赤茶けた水が吸い込まれていく。なんて恐ろしい吸引力だ。ポンプ車の比ではない。

俺が突き刺したヤツ、遠藤、猫らしきもの、人骨らしきもの、不法投棄されたとおぼしきジャンクたち……全てが吸い込まれてしまう黒い穴はまるで地獄の入り口だ。

またたく間に空になった沼底に降り、おそろおそろ暗い穴の中をのぞき込む。

——すると、目が合った。

全身が総毛立った。

何百という目が爛々と闇底からこちらを見つめている。

「小池さん！ 今すぐ大仏の首を戻して！」

「え？ 朝日さん何ですか？ せっかく……」

「早くしろ！ ヤツらがうようよ登ってくるぞ」

「ひ、ひいっ」

乱暴に降ろされた大仏の首の下敷きになりかけながらもゴキブリのような素早さで一匹這い出てきた。

先ほど倒したヤツとそっくりなその一匹は真っ直ぐ少年に向かっていく。

立花君は土気色の顔で固まっている。

俺は「だりゃあああああ！」と関の声を上げ、握りしめたままの光明刀でヤツを斬りつけた。

「ぎいいいいいいいいいいいいいいいいい！！」

こちらの身が縮むような断末魔を上げながらヤツは身をよじりその場で溶け崩れた。

「う、うわああああああああああん！」

少年の声も負けじと響く。

どうやら俺や少年を助けてくれた光明刀にはそれなりに坊さんの法力がこもっていたらしい。

\*\*\*

返りの車中、俺は考えていた。人喰い沼の遠藤を喰い殺したヤツが一匹だけあの沼に居

た理由を。

ヤツが沼に住み始めたのは大仏の首が無くなったとされる鎌倉時代なのではないだろうか？

その時代に何らかの理由で沼に地獄（？）への穴が空いた。

人々は大仏の首で人喰い沼を封印し、ヤツらがこの世に入って来るのを阻んだのではないだろうか……？ ヤツはその時から地獄に戻るに戻れず、かといって注連縄の外に出ることも出来ず、長い間、沼の底で喰う事だけを楽しみにただただ生きていたのではないだろうか……。

さて、下見にして光明刀を見つけ出し、少年の依頼は無事果たす事が出来たわけだが、番組は当然お蔵入りになった。

バツチリとヤツらが映っていたし、相手が化け物とはいえ、俺が斬りつける映像やその他もろもろが放送倫理とやらにひっかかったらしい。

人喰い沼の赤い水はいつの間にかまたなみなみと湖面に満ちていたが、ヤツが居なくなつた今、もう生き物が骨だけ浮いてくるような事はないらしい。

首なし大仏は今もこれからもずっと人喰い沼の底から乙市を見守る事だろう。

(了)